



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

No. 289

2024.11▶12

発行日 2024年11月1日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

あふれる色とはじける形。メキシコの民衆芸術が待っています／

民族学研修の旅 受付中!

研究者同行の海外現地訪問企画「民族学研修の旅」。

ラテンアメリカでは、洗練された手工芸品を「アルテ・ポプラル（民衆芸術）」とよびます。

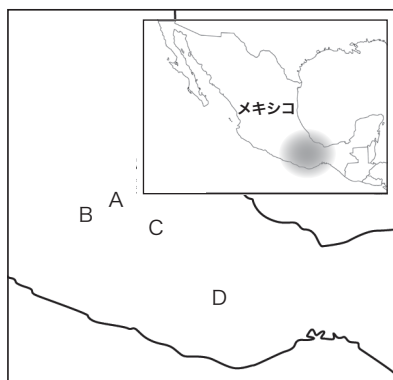
5年ぶりに再開するツアーでは、この「民衆芸術」に焦点を当ててメキシコを訪ねます。

個性豊かな造形表現でわたしたちを魅了する民衆芸術。視覚的なおもしろさはもちろんですが、それらが生まれた背景に、ラテンアメリカの人びとがたどってきた歴史的な経験や営みの数々を見ることができます。ツアーでは、“諸文化が生み出した造形表現”“国民の芸術”としての表現”“市民による批判精神としての表現”という三つのキーワードをもとに民衆芸術を訪ねます。ラテンアメリカの歴史の多層性と文化の多重性を現地で実感しましょう。みんぱく友の会だからこそ出会える体験が満載の企画です。ぜひご参加ください。



ナワル(シャーマン)の木彫。ツアーでは、アメリカ展示場にあるこの木彫を制作した職人一家の工房を訪ねます!

▶▶ こんなところを訪問します ▶▶



【A】メキシコシティ

中央高原最大規模の古代文明遺跡テオティワカンや国立人類学博物館、民衆芸術博物館やディエゴ・リベラとフリーダ・カーロの家を訪ねます。メソアメリカで栄えた古代文明を知るとともに、先コロンブス期の造形表現や美術界の巨匠にも愛された民衆芸術に注目します。

【B】メテベック

陶芸の町メテベックでは、キリスト教の世界観をあらわしたオブジェ「生命の木」の生産がさかんです。みんぱく所蔵の生命の木を制作した職人の私設博物館、民芸品市場などを訪ねます。

【C】プエブラ

植民地時代の建造物が多く残る町。特産品であるタラペラ焼きの工房を訪ねるほか、修道院の建物を利用した民芸品美術館や、この町の修道院で生まれた郷土料理モレ（カカオを用いた料理）を楽しみます。

【D】オアハカ

民衆芸術の宝庫ともいわれるオアハカ。みんぱく所蔵の木彫作品を制作した職人の工房では、色付けのワークショップに挑戦! 活気あふれる日曜市、毛織物や黒陶器の工房なども訪ねます。一方でオアハカは、社会に対する批判精神をあらわした版画制作がさかんな地域でもあります。版画工房を訪問し、町歩きをしながら公共空間に描かれた版画作品を見学します。

第95回民族学研修の旅

「アルテ・ポプラル——メキシコの民衆芸術を訪ねる」

講師：鈴木 紀（民博教授）

期間：2025年2月17日（月）～25日（火）【9日間】

申込締切：2024年11月14日（木）

参加費：724,000円 ※定員25名（最少催行人数15名）

詳細・受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/95travel/>



耳より情報

11月8日（金）に日経ホール（東京）で開催される、みんぱく公開講演会「民族×アートの現在——美をめぐる政治のゆくえ」に第95回民族学研修の旅の同行講師が登壇します。ツアーの参考にもなる話題を取りあげます（公開講演会のお申込は10月末日で終了しています）。

開催中

みんぱく創設50周年記念特別展

吟遊詩人の世界

会期：2024年12月10日（火）まで

会場：特別展示館

各地を広範に移動し、詩歌の歌い語りを通して世界を異化する吟遊詩人。

資料の展示や映像の上映のほか、展示場でライブパフォーマンスがおこなわれることが、この特別展のユニークなところ。特別展示館1階の中央アリーナでは、毎週木曜午後には人類学者・矢野原佑史氏によるDJパフォーマンスがおこなわれるほか、展示に関連するライブパフォーマンスが不定期でおこなわれます。ぜひ、お楽しみください。

特別展詳細

ライブパフォーマンスに関する情報はこちらから!

https://www.minpaku.ac.jp/ai/ec_event/51494



好評発売中！ 2025年 国立民族学博物館オリジナルカレンダー

民具——暮らしをささえる道具たち

2025年の国立民族学博物館オリジナルカレンダーは、渋沢敬三が創設したアチック・ミュージアムのコレクションのなかから、人びとの日常の暮らしに欠かせない民具を掲載しました。長い間使用されるに適した、理にかなった美しさが宿っているモノの魅力を一年を通してお楽しみください。

友の会会員価格 1,287円(税込)

25cm×25cm

(開くと縦50cm×横25cm)

オールカラー/28頁/中綴じ/月曜はじまり

定価 1,430円(税込)

5冊以上おまとめ購入 1冊1,144円(税込)

通信販売の場合、別途発送手数料が必要です。

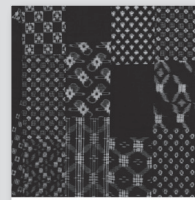
お問い合わせ

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ(水曜日定休)

e-mail: shop@senri-f.or.jp

オンラインショップ「World Wide Bazaar」

<https://www.senri-f.or.jp/shop/>



民具
暮らしをささえる道具たち

12	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

みんぱく創設50周年記念企画展

客家と日本

——華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史



会期：2024年12月3日(火)まで

会場：本館企画展示場

華僑華人の一派に客家(はっか)と呼ばれる人びとがいます。19世紀後半以降、客家は日本と密接な関係を築きあげてきました。客家と日本の関係に焦点を当てることで、これまであまり知られることのなかった東アジア関係史の一面を探ります。



詳細はこちら

巡回展

まもなく閉幕！

北海道

驚異と怪異

——想像界の生きものたち



会期：2024年11月17日(日)まで

会場：国立アイヌ民族博物館

人類は、常識や慣習から逸脱した「異」なるものを、どのように認識し、説明し、描いてきたのでしょうか。奇妙で怪しい、不気味だけどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣が大集合！



詳細はこちら

東京講演会 実施報告

■第137回■2024年7月27日(土) 会場：モンベル渋谷店

サウンド・アーカイブと民俗芸能の再活性化

——みんぱく所蔵東洋音楽学会資料を事例として

植村幸生(東京藝術大学教授、民博特別客員教員)

みんぱくには、東洋音楽学会が一九六〇～七〇年代に行った日本各地の民俗音楽調査の音源および調査メモが千件以上保管されています。しかしこのサウンド・アーカイブの存在は一般には知られていません。私は関東地方の三匹獅子舞という民俗芸能を訪ね歩くなかでこの資料に再び出会い、これを現地の伝承者の方に聴いていただくことで、伝承の再活性化に寄与できないかと考えてきました。その取り組みは、みんぱくが推進する「フォーラム型人類文化アーカイブズ」の構想を適用したものであり、また今日の民族音楽学の世界的潮流でもある、調査資料の現地「還元」や「応用民族音楽学」の理念の具体化でもあります。

本講演ではまず三匹獅子舞の概要と、東洋音楽学会資料の成立経緯や特徴を説明した後、私がこれまでに実施した現地試聴会とその結果を紹介しました。あわせて東洋音楽学会音源の一部を、現行上演と比較しながら会場の皆様にお聴きいただきました。

当初中半信半疑であった地元の方々が試聴会では熱心に音源に耳を傾け、当時の想い出や今後の伝承への意気込みなど多くの発言が飛び出したことを報告しました。最後にこの取り組みの可能性や課題を述べ、過去の音源を適切に管理しつつ伝承をサポートする民族音楽学者の役割が重要となると展望しました。講演後の質疑では、三匹獅子舞という芸能自体の成立、画像を伴わない録音資料による芸能復原の見通しといった、かなり専門的な質問がありました。



埼玉県春日部市銚子口の獅子舞
撮影・植村幸生、2023年1月

館内催し 会員先行予約

該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。催しの詳細、その他催しに関する情報は、みんぱくホームページや『月刊みんぱく』をご確認ください。

みんぱく催し

<https://www.minpaku.ac.jp/event/>



みんぱくゼミナール

第552回

地域社会で生きること——

グローバル化のなかのイタリアの人びとの暮らしから

12月21日(土)13:30~15:00(開場12:30)

講師：宇田川妙子(民博教授)

友の会先行受付：11月11日(月)~15日(金) 定員80名

第553回

ヨーロッパの多神教世界——魔女、女神、ドルイド

2025年1月18日(土)13:30~15:00(開場12:30)

講師：河西瑛里子(民博助教)

友の会先行受付：12月16日(月)~20日(金) 定員80名

みんぱく映画会

ベトルーニャに祝福を

12月14日(土)13:30~16:15(開場12:30)

司会・解説：菅瀬晶子(民博准教授)

友の会先行受付：11月1日(金)~8日(金) 定員70名

みんぱく映像民族誌シアター ※館外で開催

みんぱく製作のDVD「みんぱく映像民族誌」シリーズを上映します。

会場：第七藝術劇場<大阪・十三>

20世紀の証言 モンゴル—工業、牧畜、農業—

2025年2月2日(日)14:30~16:30(開場14:00)

司会：黒田賢治(民博助教)

友の会先行受付：12月16日(月)~20日(金) 定員20名

つながりを生きる 東京のエチオピア移民

2025年2月11日(火・祝)14:30~16:30(開場14:00)

司会：黒田賢治(民博助教)

友の会先行受付：12月16日(月)~20日(金) 定員20名

申込先着順/本人を含む2名まで

みんぱく友の会事務局(千里文化財団 内)

電話 06-6877-8893(平日 9:00~17:00)

友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

- ・会場(定員70名)、オンライン配信(ライブ配信)ともに事前申込先着順です。
- ・友の会会員は会場参加に限り予約が不要です。当日、会場受付にて会員証をご提示ください。

※会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます(参加費500円)。

大阪

第555回

異郷の聖母子たち

——アジアの美術とキリスト教

講師：古沢 ゆりあ(民博機関研究員)

日時：12月7日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

本講演では、アジアのキリスト教美術のうち、近現代、特に20世紀に焦点を当てます。1920年代から宣教師らにより、中国、日本、東南アジアなど、各地で「現地の様式によるキリスト教美術」の制作が奨励されました。それらは、現地での宣教に用いられたほか、西洋に渡り、博物館や博覧会で展示されました。洋の東西を行き来した聖母子の図像についてお話しします。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/555tomo/>



第556回

『アイヌ通史』にみるアイヌ史研究の課題と展望

講師：マーク・ウィンチェスター(民博助教)

日時：2025年1月11日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

私は英語圏初の本格的なアイヌ近現代史書を日本語に翻訳し、2021年に『アイヌ通史』として刊行しました。原著は、私の大学時代の師匠が1996年に出版した本です。この本を翻訳した理由の一つは、日本語のアイヌ史研究に見られない論点がたくさん含まれているからです。本講演では、『アイヌ通史』をいかに日本のアイヌ史研究の中に位置づけることができるか、または研究の今後の展望についてお話しします。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/556tomo/>



ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



十月十二日(土)
コレハ台北ノ
電音三太子
デス。正面デ
モ真横デモ
目が合うノ
デ、ドキッ
シマスヨ。

締切間近! 友の会会員限定企画です

中牧理事長のオンラインサロン

恒例の会員交流企画「理事長サロン」。千里文化財団の理事長であり、みんぱく名誉教授でもある中牧弘允先生と気軽に会話を楽しみましょう。

今年、みんぱくは創設50周年を迎えました。今回は創設当初から準備にたずさわってこられた、名誉教授の藤井龍彦先生をゲストに迎える特別企画! 名誉教授の久保正敏先生も交え、熱量あふれる当時のみんぱくを振り返ります。今回はオンラインでの開催です。みなさま、ぜひご参加ください!



中牧理事長

日時 11月9日(土)13:30~15:00

事前申込制。11月5日(火)までにお申し込みください。

※お申し込みいただいた方には、後日詳しい参加方法のご案内を差しあげます。

受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/rijichosalon006/>



■第551回■2024年8月3日(土)

古代エジプトの書字文化

―「刻む文字」と「書く文字」の世界―

永井正勝（民博特任教授）

本講演の前半では、古代エジプト文明で使用された文字について、漢字と対比しつつ解説しました。古代エジプトの古い時代には、絵としてのかたちを保持したヒエログリフ（聖刻文字）と、崩し字としてのヒエラティック（神官文字）とが併存していました。両者はそれぞれ正体字と俗体字に位置づけられます。王の勅令や宗教文書など威信を伴う文書には正体字のヒエログリフが使用され、文学作品や手紙など通常の文書には俗体字のヒエラティックが使用されていたのです。

ヒエログリフは造字法（文字の造り方）の観点からいうと象形文字に分類されます。つまり、物の形を象ることによって作られた文字、それがヒエログリフです。ヒエログリフに見られる象形文字には、たとえば、「山」、「太陽」、「ピラミッド」などの文字があります。またヒエログリフには、漢字の三水（シ）や人偏（イ）に類似した用法の文字もあり、漢字の形声文

字と類似した原理で単語が表記されることもありました。

講演の後半では、みんぱく所蔵のヒエログリフ碑文の内容を解説しました。扱った資料は言語展示の正面に置かれている「夢の碑」（複製（標本番号H0037550）です。この碑には、まだ王子であったトトメス四世の夢枕にスフィンクスが現れてお告げを述べたことや、トトメス四世の行動などが記されています。スフィンクスのお告げによると、トトメス四世はもともと王になる運命にあったのです。講演では、お告げの部分のヒエログリフを言語学の知見を踏まえて実際に読んでみました。



みんぱく所蔵の「夢の碑」。Scaniverseを使用して作成した3次元データを2次元化したもの 提供・永井正勝

■第552回■2024年9月7日(土)

台湾客家と日本

―二〇世紀前半を中心に―

河合洋尚（東京都立大学准教授）

本講演会は、みんぱく創設五〇周年記念企画展「客家と日本――華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」のうち、台湾客家と日本にまつわる部分に焦点を当てたものです。特に、一八九五年に日本が台湾を植民地としてから半世紀、台湾在住の客家（漢族に属するエスニック集団）と日本との間にどのようなつながりがあったのかを紹介しました。

一八九五年、日清戦争に勝利した日本が台湾を植民地とすることが決まると、その統治に反対した台湾の人々が日本軍に対してゲリラ戦をしかけていきます。これを乙未戦争といいますが、その主力となったのは客家でした。

その後、日本は台湾を統治しますが、この植民地統治の時代に客家の社会は大きく変容していくことになりました。いくつかの客家の地名が日本風に変えられただけでなく、客家は日本語教育を受け、一部の子弟は日本へ留学していました。また、日本は客家地域でタバコ、茶、樟脳

などの生産を促進し、灌漑事業を通して米やサトウキビの生産量を増産させていきます。それにより台湾の客家地域の景観も変化していききました。

他方で、台湾ではいくつかの日本人移民村がつくられていきます。たとえば花蓮の吉野村では客家が小作農を務め、村の寺院である慶修院に通うなど、日本人と客家との間には親密な関係が築かれるようになりました。

このように講演会では、客家という視点を通して、日本と台湾の知られざる関係史を浮き彫りにしました。



花蓮県の客家居住地にある旧日本人移民村の寺院 撮影・河合洋尚、2024年

本紙掲載の情報は、2024年10月21日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1 (国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00～17:00)

FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ
<https://www.minpaku.ac.jp/>



Facebook
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



Facebook
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>